

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標・・・智育・徳育・体育の全人教育による、未来を担う人物の育成                  中・長期目標・・・① 目的意識の確立と一人ひとりの進路実現 ② 学習習慣の確立と学力の向上                  ③ 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ④ 特別活動・部活動等の充実による人間力の育成                  【平成31年度重点取組テーマ】・・・生徒の主体性を引き出す教育活動の展開</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>○各種行事の運営・企画について、協働意識を高め、組織的、効率的に取り組むことが必要である。また、保護者と共に生徒の教育環境を整え、学校全体の教育力を高めていく必要がある。</p> <p>○進路ガイダンスや個人面談、オープンキャンパスへの参加、講演会の開催等は、自発的学習への動機付けとして一定の成果があがっている。「進路手帳」の活用などにより、自身の学習状況の振り返りを習慣化し、自発的な家庭学習時間を増やしていくことが大きな課題である。</p> <p>○新教育課程の先行実施として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいる。一部の教科や科目、あるいは一部の先生にとどまらず、学校全体で取り組んでいくことが課題であるとともに、ICT機器の充実が喫緊の課題である。</p> <p>○総合的な学習の時間やLHRでの図書室の利用は例年と変わらなかったが、図書の貸し出し数は減少した。他のコンテンツによる読書もあるが、学習活動での取組も含めて読書活動の啓発に努め、貸出数を一昨年度並みに増やしていきたい。</p> <p>○ホームページや防高メールによる情報発信を工夫することで、保護者・地域の皆様により多くの情報を提供する。</p> <p>○「自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成」をテーマに指導に取り組んでいる。生徒指導に関する生徒や保護者のアンケートにおける肯定的評価は年々上昇しており、生徒の主体的な行動が徐々に形になりつつある。本年度は、更なる生徒の自発的な行動を引き出すための仕掛けと組織作りにより、生徒会活動や学校行事等の充実を図る努力を継続させたい。</p> <p>○これまでと同様、進路実現のために必要な情報の収集、整理と、その情報の有効活用により学力向上に対するモチベーションを高める取組は継続する必要がある。さらに、新たな学力の3要素の育成に繋げ、大学入学共通テストをはじめとする新たな枠組みの入試に対応するため、ICTの活用を推進し、ポートフォリオの蓄積、英語4技能の能力育成等に取り組むことで、効率よい指導体制の確立を図る。</p> <p>○人間関係形成や人間力向上を図るためにも、体育的行事や部活動への参加を積極的に推奨し、コミュニケーション能力の向上や豊かな心の育成に取り組むことが必要である。生徒の健康意識を高めるための健康教育や保健指導を継続実施しており、受診率は向上しているが更に高めていく必要がある。生徒が興味・関心を持つ内容の検討や保護者との連携を密にするためにも情報発信の更なる工夫が必要である。</p> <p>○生徒の人権意識が向上するように努めるとともに、教育相談体制の充実を図り、様々な問題を抱えている生徒に対して、教職員・スクールカウンセラー・保護者の連携をより深めていく必要がある。</p> <p>【衛生看護専攻科】</p> <p>○高校入学後の早い段階から看護師国家試験を見据えた指導により看護師国家試験は高い合格率を継続できている。臨床を意識した出題、看護の思考力や判断力を問われる出題が増加しており、動向を踏まえ指導の強化を図るとともに、実習指導の更なる充実を図る必要がある。</p> <p>○卒業生講話や就職・国家試験ガイダンスなどの開催は、生徒の主体的学習への動機付けとして一定の成果があった。県内就職に繋がる取組を継続して行う必要がある。</p> <p>○一人ひとりの希望や適性に合った進路実現に向けて、早い段階からキャリアプランをもち主体的に取り組めるよう支援する必要がある。</p>
---

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>○コミュニティ・スクールの導入による学校の組織力の向上、教職員一人ひとりの意識の向上</p> <p>○学校行事の円滑な運営とPTA等との連携強化</p> <p>○「自発的な学習」や「学力向上」につながる取組の充実と指導内容・指導方法の研究</p> <p>○図書情報の積極的な発信と図書館運営の更なる充実による利用の促進</p> <p>○ホームページや防高メールを活用した情報発信の充実</p> <p>○規律ある生活習慣の確立と自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成</p> <p>○進路研究活動に基づく質の高い自発的学習活動の支援の推進と充実および新入試に対応した新たな指導体制の確立</p> <p>○体育的行事や部活動への積極的参加。教育相談の視点を踏まえた、生徒の健康意識や生活習慣の改善につながる健康教育の充実</p> <p>○生徒の人権意識の向上の推進と生徒が抱える諸課題の未然防止の視点を重視した教育相談体制の充実</p> <p>【衛生看護専攻科】</p> <p>○進路実現に向けた指導の充実と社会人基礎力を身に付けた生徒の育成</p>
--

※ 関係者評価 A：取組が優れている B：取組がよい C：取組がおおむね行われている D：取組に改善が必要である

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析【( )内は、前年度の数値】	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	自発的学習を促す指導の工夫と実践	進路目標を早期に設定させることにより学習意欲を高め、家庭学習や自主学習の定着を図る。	4：90%以上の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答 3：80%以上の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答 2：70%以上の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答 1：70%未満の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答	1	・肯定的な回答をした生徒(普通科と衛生看護科)の割合は66.8%(67.8%)で、例年同様、保護者の78.7%(76.9%)よりも低い。 ・キャリア教育としての進路講演会や卒業生講演会、オープンキャンパスへの参加等、学習意欲を喚起する取組を充実させ、学年ごとの進路ガイダンスや個人面談など、自発的な学習への動機付けに積極的に取り組んだ。 ・学習習慣の定着を図るために、朝学や週末課題などの取組を行っているが、生徒は、自宅以外での学習も含めた自発的な家庭学習が、まだまだ不十分と考えているようである。	・進路講演会や卒業生講演会の回数、オープンキャンパスへの参加人数、その他種々の取組における出席者等をKPI(重要業績評価指標)に加えてはどうか。 ・自発的学習の要領を体験できていないものと予想されるので、1年生・2年生のうちに一度外部講師を招いて学習のコツを会得させると、学力は格段に向上すると思う。 ・自分の将来を考えている生徒が多くいることがよいのではないか。世の中の情報は小さい頃から聞いている生徒が多いので、わかっていると思う。 ・将来設計にかかるポジティブシンキングをどのように引き出せばよいか。「好きこそ物の上手なれ」で、好きなことは自分の時間を有意義に使えると思う。 ・働きかけや指導は優れていると感じる。生徒自身が厳しい評価をしている気がした。 ・スマートフォンやゲーム機など誘惑が多いので、生徒自身が時間を決め、自己管理する必要がある。	C
	学力向上のための指導内容・指導方法の工夫と改善	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む、学習活動の充実を図る。	4：90%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 3：80%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 2：70%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 1：70%未満の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答	3	・肯定的な回答をした生徒の割合は89.1%(89.1%)、保護者は89.5%(89.7%)と、両者とも90%を若干下回った。 ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した手法を積極的に取り入れるなど、教員の授業改善に取り組む意識が高まり、生徒の学力向上に結び付いている。	・PDCAの具体的な取組状況を記述していただきたい。 ・生徒の進路に必要とされる学習活動の努力をされていると思う。生徒の希望が達成されることを望む。	B

	読書・図書活動の充実	読書の魅力や必要性を生徒に喚起し、学校図書貸出し数の増加を図る。	4: 図書貸出し数が、昨年より5%以上増加 3: 図書貸出し数が、昨年とほぼ同じ 2: 図書貸出し数が、昨年より5%以上減少 1: 図書貸出し数が、昨年より10%以上減少	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員会で図書だよりを発行し、図書の広報活動に努めた。進路指導と連携して小論文作成に役立つ図書を購入し、進路指導室に分置している。</li> <li>大学入試改革に向けた指導時間増加の影響により、LHR等での読書指導の時間が減少し、今年度の図書貸出し数は年間750冊程度で、前年度(841冊)よりも低くなる見込みである。</li> <li>新聞リレーの継続により、新聞を読む習慣は定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強制的に読書させることも考慮してはどうか。読書マラソン等。</li> <li>生徒も毎日忙しく、読書の時間がとれないのは残念である。読書は必要な時、自分の読みたい本を読めばよいと思っている。本読みの楽しさをわかるようになればよい。</li> <li>読書は想像力を育む上で欠くことのできない材料であるので、例えば電子書籍を与えて、そこから小論文課題を提起するなど、工夫をしてみるのもよいのではないかと。</li> <li>貸出し数の減少について原因が明らかになっている。来年度以降増加していくとよい。活字離れが問題になる中で、新聞リレーのことは知り、すごく興味があった。</li> <li>活字離れの傾向があるので新聞リレーの継続はよいと思う。</li> </ul>	B
生徒指導	規律ある生活習慣の確立と自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成	身だしなみ指導・交通安全指導など「声かけ運動」を継続するとともに、遅刻事後指導を通じて時間厳守の徹底を図る。	4: 90%以上の生徒が、基本的な生活習慣を身に付けていると回答 3: 80%以上の生徒が、基本的な生活習慣を身に付けていると回答 2: 70%以上の生徒が、基本的な生活習慣を身に付けていると回答 1: 70%未満の生徒が、基本的な生活習慣を身に付けていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした生徒の割合は88%(90%)を超えたが、前年度を若干下回った。一方保護者のその割合は、87.3%(85.1%)で、前年度より上昇した。</li> <li>制服の着こなしや、冬季の防寒着については継続的な指導が必要である。</li> <li>不注意による遅刻者数は、12月現在で月平均3.3人(4.4人)となっており、前年度に引き続き少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法の記述はないが、改善の余地はないだろうか。</li> <li>次の項目と関連するようになればよい。</li> <li>身だしなみは皆さん気を付けているように感じる。</li> </ul>	B
		全校集会・学校行事の機会を捉え校則やルールについて自ら主体的に判断できるように考えさせ、啓発するとともに、登校指導や校内巡回指導を増やし、規範意識の向上に努める。	4: 90%以上の生徒が、校則やルールを守っていると回答 3: 80%以上の生徒が、校則やルールを守っていると回答 2: 70%以上の生徒が、校則やルールを守っていると回答 1: 70%未満の生徒が、校則やルールを守っていると回答	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした生徒の割合は96.1%(95.7%)で、前年度より上昇した。</li> <li>交通事故の報告件数は6件(8件)で、昨年より減少したが、依然として自転車と自動車の接触事故が占めている</li> <li>登校時のマナーについて、歩きスマホや歩道を広がって歩くなど苦情を頂くことが数回あった。この点については継続的な指導が必要である。</li> <li>12月未現在、校内での携帯電話の使用に関して特別に指導を行った生徒は24名(20名)で、内18名(15名)が1年生であった。入学後早い段階での指導を大切にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩きスマホ等に関する指導について、改善の余地はないか。</li> <li>事故は一般社会でも毎年増加している。自分のことなので気をつける大切さを考えないといけない。</li> <li>交通事故の発生ゼロを目指した取組が必要である。生徒の一生を左右するものであり、学校としても真剣に取り組んでいただきたい。</li> <li>校則やルールを生徒が守るべきと考えて、実行できている様子を感じられた。</li> </ul>	A
		生活アンケートや個人面談などを通じて、いじめの早期発見や未然防止に努めるとともに、いじめを絶対に許さない雰囲気づくりに努める。	4: 90%以上の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答 3: 80%以上の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答 2: 70%以上の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答 1: 70%未満の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめやいじりを受けている」と回答した生徒は全学年0%(0.1%)。「全く受けていない」と回答した割合は、1年生89.4%(90.8%)、2年生87.7%(91.9%)、3年生91.9%(90.6%)である。ほとんどの生徒は、互いを認め合い、他者を尊重して学校生活を過ごしていると思われる。</li> <li>いじめやいじりの発生0をめざすため、未然防止の視点を持ち、いじめを許さない雰囲気づくりに努めなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちになって考えるような教育が重要である。</li> <li>評価者の違いはあるが、佐波分校との評価の差は少し気になる。</li> <li>いじめのない環境作りは常に必要な事だと思う。</li> <li>ホームページに「山口県立防府高等学校いじめ防止基本方針」が閲覧可能になっている点は評価できるものの、当期の取組状況等の詳細が確認できれば、なおよいと思われる。</li> <li>いじめやいじりを全く受けていないと回答している生徒は約9割であり、それ以外の生徒に、特に気を配っておく必要がある。</li> <li>達成度は3でも、いじめやいじりを受けていると回答した生徒が0%は、すごいことだと思う。いじめない、いじめられないという意識が高いように感じた。</li> </ul>	B
生徒が相談しやすい教育相談体制の確立	生徒情報の収集や情報共有に努め、様々な問題を抱えた生徒が、教員やスクールカウンセラーに相談しやすい教育相談体制の充実を図る。	4: 90%以上の生徒が、学校(教員、スクールカウンセラー)に相談することができると思うと回答 3: 80%以上の生徒が、学校(教員、スクールカウンセラー)に相談することができると思うと回答 2: 70%以上の生徒が、学校(教員、スクールカウンセラー)に相談することができると思うと回答 1: 70%未満の生徒が、学校(教員、スクールカウンセラー)に相談することができると思うと回答	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした割合は、生徒62.4%(65.8%)、保護者76.5%(79.4%)となっている。生徒、保護者共に割合が下がっている。</li> <li>学年団や養護教諭だけでなく、部活動の顧問や教科担当との情報共有を密にし、個々の生徒の状態に応じた適切な声かけや支援をさらに強化していく。また、校内教育相談研修によって教員の相談対応スキル向上に努め、生徒にとって相談しやすい体制づくりに努めなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修をぜひ継続していただきたい。</li> <li>難しい問題だと思う。生徒が自然に相談できる環境になればと思うが限界もあると思う。</li> <li>地域興しの基礎となる部分と思うので、教員・PTAを含め議論を深めていただきたい。</li> <li>教員間の情報を密にして、問題を共有し相談しやすい体制づくりをしてほしい。</li> </ul>	C	
進路指導	学びの質を高める進路指導	進路講演会・進路指導通信などを通して、適切な内容の情報提供に努め、進路意識を高める。	4: 90%以上の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っているという回答 3: 80%以上の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っているという回答 2: 70%以上の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っているという回答 1: 70%未満の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っているという回答	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした生徒の割合は、77.0%(88.8%)で昨年より大幅に減少した。1、2年生と3年生で受験システムが変わる時期で、特に進路指導通信など学年によって不必要な内容と判断してしまう生徒がいたものと思われる。</li> <li>外部講師を招いての学年別進路講演会や小論文講演会、希望者対象で大学の担当者を招いての大学・学部説明会や2年生対象に2回の出前講義を行った。</li> <li>生徒向けに年6回、保護者向けに年2回の進路指導通信を発行し、その時期にあった進路情報を提供するとともに、進路意識の高揚を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的意見が減少した理由について、推測ではなく、ぜひとも分析してほしい。</li> <li>専門性を高める講演が数多くあり、生徒のよい刺激になっている。</li> <li>試験制度の変化するこの時代、正しい知識を身に付けてほしいと思う。</li> </ul>	C

		模試分析の結果を元に、学習方法の改善についての情報を提供し、学習の質を高める。	4 : 90%以上の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答 3 : 80%以上の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答 2 : 70%以上の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答 1 : 70%未満の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした割合は、生徒88.5% (87.8%)、保護者82.4% (83.4%)で、生徒は昨年度より若干上昇した。</li> <li>外部専門家を招き、学年別に模試結果分析会を開催し、結果の分析を行うとともに、以後の学習・進路にかかわる指導方針について協議した。教員間の連携を取りながら共通認識を深めることで、生徒個々の学習方法の改善に向けての情報提供に当たった。</li> <li>レベル別模試、共通テスト対応模試を実施し、個々の進路目標に適した学習評価をし、生徒のモチベーションを高める指導ができる体制を整えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員の結果ではなく個人の分析が求められる。人数分だけ改善の方法はあると考えられる。AIによる分析を検討できないか。</li> <li>進学するための学力向上を今の時代求められている。それ相応の授業内容で、結果が悪いときの対応が必要だと思う。</li> <li>80%以上を90%以上に改善するための学校側の努力を期待したい。</li> </ul>	B
	積極的な健康教育の推進	学校保健活動の啓発に努め、学校全体の健康意識の向上を図る。	4 : 90%以上の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答 3 : 80%以上の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答 2 : 70%以上の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答 1 : 70%未満の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした割合は、生徒80.3% (81.9%)、保護者80.8% (83.4%)で、昨年度より若干減少した。</li> <li>将来直面する性に関する問題について、適切な意志決定や行動選択を行うことができるよう、1年生を対象に健康教育講演会を開催した。</li> <li>保健だよりや生徒保健委員会の活動を通して、健康・安全に関する情報発信をしているが、保護者が必要としている情報についても、積極的に発信していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康に関するデータを公表、共有してはどうか。他の学校との比較も重要である。</li> <li>大人になる成長過程の大事な時期なので、正しく健康管理をしてほしい。</li> </ul>	B
健康教育	心身の健康を適切に管理し改善していく能力の育成	う歯治療勧告の強化や学校歯科医との連携による保健指導により、生徒の健康意識を高め、受診率を向上させる。	4 : 対象生徒の受診率90%以上で、生徒の健康意識が大幅に向上 3 : 対象生徒の受診率80%以上で、生徒の健康意識がやや向上 2 : 対象生徒の受診率70%以上で、生徒の健康意識があまり向上せず 1 : 対象生徒の受診率70%未満で、生徒の健康意識がほとんど向上せず	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の結果、「要受診」となった生徒の受診率は、歯科58.4% (63.3%)、視力62.8% (73.3%)であった。学年が上がるにつれて、受診率が低くなる傾向がある。</li> <li>学校歯科医と連携し歯科保健指導を行った結果、受診の必要性を理解し、意識の変化も見られた。健康行動につながるよう、今後も継続的な保健指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な保健指導について具体的にやってほしい。</li> <li>歯の健康は重要なので、自意識の向上がはかられる指導が、とても求められると思う。</li> <li>う歯治療の必要な生徒が少数で、受診率が上がらないだけで、概ね生徒の歯は健康ではないのか。</li> <li>保護者、生徒がこの健康状態の良し悪しを知り対応してほしいと思う。</li> <li>学業で忙しく、受診の機会が少なくなっていると思われる。スマホなどを活用して待つことなく受診できる環境づくりをしていく必要がある。</li> <li>夏休みを利用して積極的に受診してほしいと思う。対象者が面倒に感じていると思われるが、早期治療のメリットは大きいことを知ってほしい。</li> <li>心身の健康の大切さを指導し、健康行動につながるような指導が必要である。</li> </ul>	C
	体育的・学校行事の活性化	総合スポーツ大会やクラスマッチなどにクラス一丸となって積極的に参加活動させる。	4 : 90%以上の生徒が積極的に参加できたと解答。 3 : 80%以上の生徒が積極的に参加できたと解答。 2 : 70%以上の生徒が積極的に参加できたと解答 1 : 70%未満の生徒が積極的に参加できたと解答	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした生徒の割合は87.6% (86.7%)であった。</li> <li>ほとんどの生徒が肯定的意見を述べている。</li> <li>運営・企画としては、暑熱対策等を考慮し、開催時期や種目設定など多くの課題が残るなか、他の分掌とも連絡を密にとり対策を考えていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間意識の醸成が必要である。</li> <li>卒業してからの楽しい思い出にもなるように、頑張って活動してほしい。</li> <li>本校の理念に一步でも近づけるよう、更なる努力が求められる。その問題解決のための方策をどうすればよいかについて、具体的検討を行うべきである。</li> </ul>	B
特別活動等	よりよい学校づくりに向けて課題解決しようとする自主的・実践的な態度の育成	生徒会活動・委員会活動の活性化を図る。	4 : 90%以上の生徒が、生徒会活動が活発と回答 3 : 80%以上の生徒が、生徒会活動が活発と回答 2 : 70%以上の生徒が、生徒会活動が活発と回答 1 : 70%未満の生徒が、生徒会活動が活発と回答	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした生徒の割合は78.4% (80.1%)、保護者の割合は78.9% (78.5%)であったが、生徒会活動について認知度が低く、活動についてアピールする必要がある。</li> <li>生徒会役員が文化祭において中心的な役割を果たした。また各委員会でも意見を持ち寄り、様々な方面で活動に取り組んだ。</li> <li>生徒総会の要望事項について（寒さ対策の膝掛け、下足箱のすのこ設置）積極的に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動をアピールする方策にはどのような指導があるか。</li> <li>楽しい高校生活を過ごせるよう、活動を活発にしてほしい。</li> <li>本校の対外的アピール度に反映される項目であり、真剣に取り組み必要がある。</li> <li>生徒会役員だけでなく、多くの生徒が企画運営する生徒会活動をしてほしい。</li> </ul>	C
	体験的な活動の充実による心身の調和のとれた発達と個性伸長の促進	文武両道を奨励し、学校行事、ボランティア活動、部活動など生徒の自主的な活動の活性化を図る。	4 : 90%以上の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答 3 : 80%以上の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答 2 : 70%以上の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答 1 : 70%未満の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答をした生徒の割合は73.3% (74.8%)保護者の割合は84.7% (84.6%)であった。</li> <li>生徒会のメンバーを中心に、防府警察署とタイアップし、自転車盗難を市民の方々に呼び掛けるなど率先して活動した。</li> <li>生徒は慣れない活動の中で様々な問題に直面するが、それらの問題を協同しながら解決する姿勢を伸ばしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文武両道のための具体的方策を示してほしい。</li> <li>中学校での夏休みの補充学習を拡充してほしい。</li> <li>生徒が協力して自主的な活動をすることは、その行動が役立つ時代が必ず自分たちの将来にあると思う。</li> <li>問題を解決することは社会生活の中でも重要である。協同し解決する姿勢を伸ばしてほしい。</li> </ul>	C
衛生看護専攻科	学力向上及び看護実践能力習得のための指導内容・指導方法の工夫と改善	研修会への参加や研究授業・授業評価などに積極的に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動の充実を図る。	4 : 90%以上の生徒が、防高は学力向上・看護実践能力習得に取り組んでいると回答 3 : 80%以上の生徒が、防高は学力向上・看護実践能力習得に取り組んでいると回答 2 : 70%以上の生徒が、防高は学力向上・看護実践能力習得に取り組んでいると回答 1 : 70%未満の生徒が、防高は学力向上・看護実践能力習得に取り組んでいると回答	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に相互の授業参観や授業評価を行い、授業改善に取り組んだ。肯定的な回答をした専攻科生徒の割合は78.3% (76.0%)と昨年度より上昇している。</li> <li>専攻科生徒の自発的取組に対する肯定的な回答は昨年度より上昇しているが、63.2% (47.5%)と低いため、主体的な学習につながる支援を検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省点について来年度の行動計画を提出させるとよい。</li> <li>専門職養成なので、この項目が、あがっていくことが重要だと思う。</li> <li>専攻科の皆さんは自分の将来の仕事を決めている。目標の決まった人達は頑張っていると思う。</li> <li>本専攻科は防高の特徴の一つでもあり、常に県内トップクラスの実力を持つ高校となるよう、抜本的改革を進める努力が必要だと思う。</li> </ul>	C

	将来看護を担う者として、社会人基礎力を身に付け自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成	身だしなみやマナーの指導、規範意識を高める指導を継続し、社会人基礎力を身に付けられるようにする。	4:90%以上の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答 3:80%以上の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答 2:70%以上の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答 1:70%未満の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答	4	・多くの専攻科生徒は規範意識が高く主体的に行動できている。 肯定的な回答をした専攻科生徒の割合は85.3%(81.0%)、専攻科保護者の割合は94.7%(81.8%)と高く昨年度より上昇している。 ・学校生活外での交通事故(自動車運転中)が3件(2件)発生している。	・引き続き指導を継続してほしい。 ・登下校、学校を参観した際も良好である。	A
	生徒が将来を主体的に考え活動できる進路指導	進路講演会・卒業生との交流機会などを通して、適切な情報の提供に努め、進路意識を高める。卒業生講話・就職ガイダンスなどを通して、主体的に進路を選択できるようにする。	4:90%以上の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンス等が役立っていると回答 3:80%以上の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンス等が役立っていると回答 2:70%以上の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンス等が役立っていると回答 1:70%未満の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンスが役立っていると回答	3	・就職活動ガイダンスや看護師国家試験ガイダンスについて、肯定的な回答をした専攻科生徒84.9%(79.8%)、専攻科保護者92.3%(86.6%)の割合は高く、進路決定や学習の意識付けに役立っているため、今後も実施時期の検討を重ねながら継続して実施していく。 ・今年度は4月当初に就職試験選考講座を開催し、選考試験に向けて有意義であった。 ・地域の実習施設等からの講師による講義は、キャリアプランを考える上でも有意義なものとなっている。	・選考講座について教職員サイドが有意義と評価するのではなく、生徒の生の感想が聞きたい。 ・専門性を高める講演が数多くあり、生徒のよい刺激になっている。 ・自分の将来を自分で考えて行動してほしい。 ・生徒の要望などを十分にくみとった内容となるよう常に努力してほしい。	B
学校運営	学校行事におけるPTAとの連携・協力体制の強化	PTA活動への参加を広く呼びかけるとともに、文書、HP等を利用して学校行事の周知を図る。	4:90%以上の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答 3:80%以上の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答 2:70%以上の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答 1:70%未満の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答	3	・肯定的な回答をした高校3年までの保護者の割合は87.3%(87.2%)、専攻科の保護者の割合は86.7%(81.4%)であった。 ・学校行事の案内について、昨年度同様、プリント配付とともにホームページ掲載も行っている成果と思われる。 ・より多くの保護者に学校に関心を持ってもらい、行事に積極的に参加できるよう工夫・検討を続けたい。	・ホームページをもっと活用し、アカウント数のチェックを行い、検証を進める。 ・保護者の参加は必要なので、積極的に働きかけをしてほしい。 ・地域で生徒を支えていく姿勢が問われる中、PTAの学校離れを回避するための方策の在り方を、保護者との懇談の中から見つける努力をお願いしたい。 ・PTA総会の土曜日開催はとてもよいと思う。出席者の増加は出席しやすさの表れだと思う。	B
	情報発信の工夫と充実	アンケート等を利用して、必要とされる情報を分析してHP運営に活かす。防高メール配信の活用方法を学科・学年・分掌の側面から検討する。	4:90%以上の保護者が、ホームページの更新頻度や内容は適切であると回答 3:80%以上の保護者が、ホームページの更新頻度や内容は適切であると回答 2:70%以上の保護者が、ホームページの更新頻度や内容は適切であると回答 1:70%未満の保護者が、ホームページの更新頻度や内容は適切であると回答	3	・肯定的な回答をした高校3年までの保護者の割合は83.3%(83.5%)であり、生徒、教職員ともほぼ同じ数値であった。 ・専攻科での肯定的な回答をした保護者の割合は89.8%(80.3%)であった。その一方、生徒の割合は59.6%(66.0%)しかなかった。専攻科に関する情報発信のあり方を今後検討する必要があると考える。 ・緊急連絡(休校等)の発信時刻がもう少し早くならないかという意見があったが、7月18日付け「気象警報への対応について」を原則とし、さらにJRからの情報提供を踏まえて決定していることについて、ご理解していただけるよう工夫していきたい。 ・緊急情報以外のメール配信については、学年等からの利活用が高まりつつある。	・PTAの何%がホームページを閲覧しているか検証が必要である。KPIに加えてはどうか。 ・情報発信の時代、よりよく活用してほしい。 ・災害等の発生→緊急情報の発信→対応のプロセス学習は、これから生きていく若い世代には必須項目であり、徹底した指導をお願いしたい。	B
業務改善	学校の組織等						
	校務の円滑な運営、組織力の向上	各種業務について、組織的な対応、取組を一層推進し、組織力の向上を図る。	4:90%以上の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答 3:80%以上の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答 2:70%以上の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答 1:70%未満の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答	1	・肯定的な回答をした教職員の割合は67.2%(54.8%)であり、昨年度より12.4ポイント増加した。 ・各学年主任と進路指導部長との情報交換は週1回実施し、学年と分掌間、学年間の連携を図っている。 ・教育相談は、分掌の学年担当が窓口となり、学年、教育相談部、SCが連携している。保健日誌の内容を人権教育・教育相談部と情報共有することで連携が深まり生徒対応が迅速に行われた。 ・今後も一層の業務の見直し・効率化を検討し、連携して業務に当たれるように情報共有・共通理解を進める必要がある。	・アンケートで否定的な意見を持つ教職員の意見が聞きたい。 ・業務分担について見直しを図る必要があると思う。 ・校長のリーダーシップが求められる分野であり、働き方改革の先陣をきってほしい。	C
	業務の見直し、改善による効率化の推進	定例的な様々な業務をより効率的に推進するため、スリム化も含めて見直し、工夫改善を行う。	4:90%以上の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答 3:80%以上の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答 2:70%以上の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答 1:70%未満の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答	1	・肯定的な回答をした教職員の割合は32.3%(30.6%)で、1.7ポイント増加した。 ・年度途中でサーバーのダウン、パソコンの不具合等により、業務の効率化を体感できなかった。 ・一部の会議において、事前会議や時間短縮等が図られた。 ・新たな業務が増加する中、見直しや効率化、役割分担の変更による業務量の平準化など、改善を徹底していく必要がある。	・抜本的な見直しが必要と考える。教職員の意識改革が求められる。 ・個人で行える内容と学年ごとのチームで改善するなど、集団での取組について検討するの一案ではないか。 ・本校のかかえる問題点を抽出し、そのような環境下で、どのような業務改善ができるかを教職員全員で協議する場があれば、それを活用すると効果的であると思う。	C
勤務状況	部活動や諸業務の計画的な運営	休暇取得や勤務時間終了後早期の帰宅の呼びかけ、部活動の計画的な運営の啓発等を進め、教職員の時間外業務の削減に努める。	4:教員の時間外業務従事時間が、前年度比65%以下 3:教員の時間外業務従事時間が、前年度比80%以下 2:教員の時間外業務従事時間が、前年度比100%以下 1:教員の時間外業務従事時間が、前年度比増加	2	・教員一人当たりの時間外業務時間は、12月末までの平均で一月当たり50時間15分(50時間28分)であり、昨年度より僅かに減少した。 ・平素から早めの帰宅を促す声かけ等を行い、時間外業務時間削減に努めたものの削減に結びつかなかった。 ・授業日における時差出勤、部活動運営方針の策定などを通して8月以降は、昨年度より時間外業務時間は減っているが、更なる手立てを考えていく必要がある。	・月平均50時間の時間外は長すぎる。ただ早く帰れと叫ぶだけでは問題の解決にならない。ワークシェアリング、属人化の防止など抜本的対策が必要である。 ・毎年多くの業務が増えている状態だと思われる。制度の改革が行わなければ時間外業務の削減はないと思う。 ・財政的支援も必要な分野であり、困難が予想されるが、学校運営協議会での意見等も参考にするとよいかもしれない。	C

<p>6 学校評価総括（取組の成果と課題）</p> <p><b>【学習指導】</b></p> <p>○進路ガイダンスや個人面談、オープンキャンパスへの参加、講演会の開催等は、自発的学習への動機付けとして一定の成果があった。しかし、スマートフォンやゲーム機などの誘惑が多く、安きに流される生徒も多いと思われる。「進路手帳」の活用により、自身の学習状況の振り返りを習慣化できている生徒もいるが、自発的な家庭学習時間をさらに増やしていくことは大きな課題である。</p> <p>○新教育課程の先行実施として、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善に取り組んでいる。研究授業の回数も増えているが、一過性に終わらず、また一部の教科や科目にとどまらず、学校全体で取り組んでいくことが課題である。</p> <p>○図書委員会の奮闘により、各クラスへの新聞配付はスムーズに行われているが、読書の啓発活動が不足している。また、総合的な学習の時間（1年生は総合的な探究の時間）やLHRでの図書室の利用が減少している。次年度は、読書活動の啓発に努め、貸出数を昨年度以上に増やしていきたい。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>○継続課題である①スマートフォンにおけるSNSの適切な利用、②交通事故防止と正しいマナーの徹底、③身だしなみ指導 は生徒一人ひとりの心に訴えかけながら粘り強く指導してきたが依然として問題がないわけではない。</p> <p>○学年団や養護教諭との情報交換を密にし、日常的に生徒の小さな変化を見逃さないような姿勢を意識した。年3回の生活アンケート実施後は、気になる生徒に対して担任や教育相談で個別面談を実施した。年5回教育相談部会を開き、情報を共有し、個別の生徒に関する状況把握や問題解決に向けた話し合いを行った。また、校外の関係機関とも連携し、専門的な助言を受けながら生徒や保護者へ対応した。今後も連携体制を継続していく。</p> <p>○スクールカウンセラー（SC）からの専門的で具体的な助言により問題解決に至ったことも多い。さらに今後は、SCが生徒、保護者、教職員向けに実施する講演会等を計画していきたい。</p> <p><b>【進路指導】</b></p> <p>○入試制度の過渡期で、情報の取捨選択についての指導が行き渡らなかった。来年度はすべての情報を全学年共有できるので、必要な情報を必要な時期に的確に提示することをこれまで以上に意識して行うことが重要である。</p> <p>○学習方法改善の情報源となる模試検討会議の内容を各学年担当者が共通認識のもと共有し、それぞれの指導の場面で活用している。これらの情報を生徒が効率よく吸収・活用できるように、進路手帳活用やICT、ネット環境の利用など、提供された情報の整理や活用の手法の指導を検討していくことが重要である。</p> <p><b>【健康教育】</b></p> <p>○生徒の健康意識を高めるための健康教育や保健指導を継続して行ってきたことが、生活習慣の改善や受診率の向上につながってきている。また、生徒保健委員の中には、健康・安全に対して意識の高い生徒も増えてきており、委員会活動を通して全校生徒にもつなげていきたい。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>○PTA研修会では、役員だけでなく評議員の方々にも参加・協力を求め、PTA活動を広める努力をした。</p> <p>○PTA総会を土曜日開催に変更し、学級懇談も実施することで、保護者の積極的参加を呼びかけた。全校生徒数に対する出席者の割合は、昨年度の19%に対して本年度は27%と増加した。</p> <p>○PTA評議員会に合わせて人権教育講演会を開催したり、行事実施の様子をホームページで報告したりするなど、保護者の方々に有益な情報を提供できるよう努めている。今後も保護者と共に学ぶ姿勢を大切にし、保護者の方々がより参加しやすい環境づくりを進める必要がある。</p> <p>○HP関係では、県のWebサーバ更新により従来のCMSシステムが使えなくなったため、現在Webページを暫定で作成し運用している。そのため、更新頻度は昨年度より減ったと思われる。本校の新しいWebページをどのようにして構築していくのが今後の課題となる。一方、防高メールについては緊急時以外にも活用する取組が見られたため、今後、さらに充実させていきたい。</p> <p><b>【衛生看護専攻科】</b></p> <p>○学年に応じた看護師国家試験を見据えた学習内容を取り入れると共に、新教育課程の先行実施として「主体的・対話的で深い学び」を意識し、学習と臨地実習・校内演習を結び付けて考えられるよう授業改善に取り組んでいる。引き続き教員相互の授業参観や意見交換などを行い、生徒の主体的な取組の支援に向け、教員のスキルアップを図る必要がある。専門科目の学習においては、ICTの活用や多様な学習活動を設けることで、生徒の興味関心は高まっているが、生徒自身の取組姿勢に対する評価は低いいため、引き続き検討が必要である。</p> <p>○今年度、実習病院への就職は卒業生の30%程度であり、約半数の生徒は県外就職である。卒業生との交流を今後も継続し、県内への就職を推奨していく。就職試験の時期の早まり、募集・採用人数の減少により、第1希望への就職が困難な場合が増加している。低学年時より主体的に進路について考え、具体的に行動できるような支援を引き続き行っていく。</p> <p>○心身の不調を訴え、教育相談的支援の必要な生徒が増えてきている。専攻科での学習内容の難しさや進度の速さへの戸惑い、専門職業人として求められる資質や適性など、進学して直面することも多いため、高校課程からスムーズに進学できるよう様々な取組を行っているが、進路変更希望の場合には生徒一人ひとりの希望や適性に合った進路実現ができるようサポートしていくことが必要である。一層、相談しやすい環境づくりを行い、本人・保護者・スクールカウンセラーとの連携もしっかり図っていく。</p> <p>○看護職として必要な社会人基礎力の育成に向け、学習活動（臨地実習を含む）や特別活動を通して指導を継続しているが、より具体的な指導計画が必要である。常に問題意識をもって自発的に課題に取り組み、問題解決に向けた思考を展開し、周囲の人と協同するなど今後も継続して指導していく。</p> <p>○遠方からの通学生徒が多いため、緊急メールの配信時間に関する要望が非常に多かった。</p> <p><b>【業務改善】</b></p> <p>○業務連携については、教職員の肯定的評価が70%近くに増加したことからも、各分掌と学年団の連絡調整等の連携は改善されてきている。新たな業務内容が増加する中で、業務分担の見直し、共通理解や情報共有を一層促進し、組織力の強化を図っていく必要がある。</p> <p>○事前会議や会議の回数削減など業務の見直しを行ったが、教職員は業務の軽減や効率化が実感できない状況にある。生徒に向き合う時間を十分確保するとともに、教員の心身の健康を保持するためにも、より一層の業務の見直し、工夫改善を進める必要がある。</p> <p>○平素から早めの帰宅を促す声かけを行うとともに、面談等の機会を捉えて意識啓発を行っているが、なかなか時間外業務従事時間を減らすことは難しい。部活動運営方針の策定を受けて、週休日に部活動指導を行う教員の意識啓発を行っているが、時間外業務従事時間の大幅な削減にはつながらなかった。今後も、部活動については、生徒への影響も踏まえ、休養日、活動時間、外部との連携等さらに検討する必要がある。</p>
<p>7 次年度への改善策</p> <p><b>【学習指導】</b></p> <p>○総合的な探究の時間（3年生は総合的な学習の時間）でのキャリア教育の充実を図り、個人面談等で個々の生徒の進路目標を把握し、生徒の自発的学習への意欲を喚起していきたい。また、「進路手帳」やClassiの積極的な活用により、自身の学習状況の振り返りや短期・長期の学習計画の策定を習慣化し、自発的な家庭学習に結び付けていきたい。</p> <p>○授業公開、生徒への授業アンケート、「主体的で深い学び」に関する研修会への参加等を通して、さらなる授業改善を図ってきたい。また、新学習指導要領の内容や大学入試制度の動向等も踏まえながら、新教育課程の研究をさらに進めていきたい。</p> <p>○図書情報の積極的な発信をさらに充実させ、学習活動での機会も含めて、読書活動の活性化を是非とも図ってきたい。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>○「自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成」の目標は引き続き掲げていく。</p> <p>○継続課題である①スマートフォンにおけるSNSの適切な利用、②交通事故防止と正しいマナーの徹底、③身だしなみ指導 は問題の本質を生徒一人ひとりの心に訴えかけ、理解を促しながら指導していきたい。</p> <p>○生徒間における互いを尊重する意識の高揚を図り、「いじめやからかいを絶対に許さない」という雰囲気づくりのための啓発を継続する。</p> <p>○担任、養護教諭との情報交換を密にし、生徒の実態把握に努める。個々の生徒に適切な支援が行えるように、各学年との連携を深め、生徒理解に努める。</p> <p>○生活アンケートや担任からの情報提供などにより、問題の早期発見、早期対応に努める。問題が生じた場合には、速やかに部会、委員会を開く。また、スクールカウンセラー（SC）が実施する講演会等を生徒、保護者、教職員向けに計画したい。</p>

**【進路指導】**

○進路研究や探究活動を通して、自らに必要な情報を収集・選択する態度を育てるため、進路指導室等の校内の情報源やICTなどの情報収集手段の活用方法に関する指導をさらに充実させる。また、情報から分析された各自に必要な学習の内容や方法について、自ら試行錯誤しながら教員に質問するなど主体的に取り組むことの指導も充実させる。さらに、大学入学共通テストをはじめとする新たな枠組みでの入試と、大学・社会から求められる力の育成に向けて、進路研究や探究活動とeポートフォリオなどの受験準備をClassiの活用を通して進めていく。

**【健康教育】**

○生徒が抱えている心身の健康課題をより正確に把握し、課題解決につながる健康教育の充実を図りたい。また、生徒の健康と安全を守るためには、保護者の理解と協力が必要であり、保護者への情報発信にも努めたい。

○総合スポーツ大会・クラスマッチの開催時期、開催種目を他の分掌とのかかわり含めて再検討する。

**【学校運営】**

○次年度もPTA総会を土曜日開催とし、学級懇談等の内容も充実させることで、引き続き保護者の積極的参加を呼びかけていく。

○Webページのリニューアルについて、各方面からご意見をいただき、本校にとって最良となるデザイン・内容を考えていく。また、本年度から年次進行で導入されたClassiが全学年で活用されるようになるまでに、Webページ、防高メールを含めた情報発信のあり方について、検討していく。

○緊急メールの配信に関しては「気象警報への対応について」等の原則を周知していく。

**【衛生看護専攻科】**

○生徒の進路実現に向けて看護師国家試験教員指導対策セミナーなどに積極的に参加し、動向把握と教員の指導力向上を図る。併せて、生徒の主体的な学習を支援するために、教材や課題の検討、評価方法について改善を図るとともに、ICT活用の充実を図る。

○卒業生講話やガイダンス、就職試験選考講座の実施等、進路指導の取組は引き続き継続し、希望進路の実現をめざすとともに、県内就職者の増加をめざす。

○生徒・保護者・スクールカウンセラーや教員との連携を図り、個人の希望に沿った進路実現ができるよう指導していく。

○就職後を意識し、社会人基礎力の能力要素について、具体的に学習指導計画に組み込んでいく。

**【業務改善】**

○管理職と教職員の意思疎通を一層促進するとともに、全教職員の議論の場を増やし、学校改善に向けて組織的に協働する体制づくりや雰囲気づくりを推進する。

○校務支援システムの導入に伴い、分掌の各業務の見直しや改善を進めるとともに、業務の効率化を進め、分掌と学年、学年間、分掌間の一層の情報共有、連携強化に取り組む。

○部活動運営方針のもと、部活動の計画的な運営を十分意識して、時間外業務時間の削減に努める。